

事業名称	「日本一～認知症高齢者にやさしいまちづくり姫路～宣言事業」
団体名・代表者	青山 1000 人会 岸岡孝昭
協働の相手方	地域包括支援課

目的	平成30年度に調査した認知症カフェアンケートから、把握した課題を関係機関と共有認識し現在活動している認知症カフェをより充実させ、認知症高齢者等が地域で通い続けられる場にする事で、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを構築する。課題解決施策を市長に提言する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内23地域包括支援センターを訪問し認知症カフェの課題を提供する。 認知症カフェ運営責任者を対象に課題を提供し解決に向けて意見交換会を開催する。 認知症カフェ運営スタッフ研修会を開催し、カフェ運営者を養成する。 認知症カフェ運営の施策提言を市長にする。
事業経過	<ul style="list-style-type: none"> 市内の地域包括支援センター職員の認知症カフェに運営に対する意識の向上をはかる。 認知症カフェ運営スタッフの意識向上をはかる。 認知症カフェ運営スタッフ研修でカフェ運営ボランティアの養成をはかる。 姫路市認知症カフェについて市長に施策提言する。
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ運営上の課題が共有できた。 認知症カフェ運営者等が活動のふりかえる機会になった。 認知症カフェの持続可能な施策を市長に提言できた。 認知症カフェ運営について研修会参加者が認識できる機会を提供できた。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ運営上の課題を解決し、公益性、公平性のカフェ運営。 認知症カフェが認知症の当事者や家族、関係のある方の居場所になる。 シニア世代が地域活動に関心を示し、住み慣れた地域で住み続ける街を築く。 認知症カフェが充実した活動運営になれば「日本一高齢者にやさしい街・姫路」宣言

【実施団体の事業総括・感想等】

<ul style="list-style-type: none"> 市内の「認知カフェ」の課題解決には関係機関と市民が市民活動の意義を再考する必要があると認識しました。市民活動は、市民と行政の信頼関係の上で成り立ち、互いに距離感を持つことで成長していくと再認識しました。 弊団体が運営する「オレンジカフェあおやま1号店」「オレンジカフェあおやま2号店」が市民に受け入れられモデルになるような「認知症カフェ」として活動したい。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの視点を持ち、平成30年度から引き続き本市の認知症サロンの充実や、認知症高齢者等が地域で通い続けられる場の確保に向けて取り組んでいただいた。</p> <p>平成30年度のアンケート結果から得られた課題を認知症サロンに提供し、解決に向けてワークショップ型の意見交換会を開催していただいた取り組み等は課題の共有化や活動の振り返りの機会になったと考える。</p>
--